

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|-----|------------|
| 人間の尊厳と自立 | 通信 | 5時間 | 八木 馨・橋谷 庸子 |
| 授業の目的・ねらい | 「人間の理解」を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。 | | |
| 授業全体の概要 | <u>人間の尊厳と自立</u> 介護における尊厳の保持と自立支援 | | |
| 到達目標 | <u>○尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。</u> | | |
| 指導の視点 | 介護における基本的理念 | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|-----|------------|
| 社会の理解 I | 通信 | 5時間 | 八木 馨・橋谷 庸子 |
| 授業の目的・ねらい | 介護実践に必要な知識という観点から、介護保険制度創設の背景、目的、基礎的な知識、制度における専門職の役割を学ぶ。 | | |
| 授業全体の概要 | <u>介護保険制度</u> | | |
| 到達目標 | <u>○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</u> | | |
| 指導の視点 | 介護保険制度の目的、仕組み、サービスの理解 | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|--|------|------------|
| 社会の理解Ⅱ | 通信 | 30時間 | 八木 馨・橋谷 庸子 |
| 授業の目的・ねらい | 個人の自立・自律した生活を営むという視点において、個人、家族、近隣、地域、社会単位で個々人を捉える視点を養い、生活と社会の関わりにおいてライフステージに応じた法制度が制定されていることを理解する。 | | |
| 授業全体の概要 | ①生活と福祉 ②社会保障制度 ③障害者総合支援法 ④介護実践に関連する諸制度 | | |
| 到達目標 | <p>○家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。</p> <p>○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。</p> <p>○障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p> <p>○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。</p> | | |
| 指導の視点 | 地域における福祉サービスのあり方 社会保障・障害者総合支援法等制度について | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|------|------------|
| 介護の基本 I | 通信 | 10時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①介護福祉士制度 ②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 ③介護福祉士の倫理 | | |
| 到達目標 | ○介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。 ○個別ケア、ICF、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ○介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。 | | |
| 指導の視点 | 介護福祉士の職業倫理 | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|--|------|------------|
| 介護の基本Ⅱ | 通信 | 20時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習をする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①介護を必要とする人の生活の理解と支援 ②介護実践における連携 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護福祉士の安全 | | |
| 到達目標 | <p>○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する事ができる。</p> <p>○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。</p> <p>○リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。</p> <p>○介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。</p> | | |
| 指導の視点 | <p>連携について</p> <p>利用者ニーズ把握と介護実践</p> <p>介護における安全とリスク</p> | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | <p>レポート課題等の提出を評価する。</p> <p>A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。</p> | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|------|------------|
| コミュニケーション技術 | 通信 | 20時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①介護におけるコミュニケーション技術 ②介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ③介護におけるチームのコミュニケーション | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○利用者、家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 ○援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。 ○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。 | | |
| 指導の視点 | 相談援助について コミュニケーション技法 カンファレンス等における連携 | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|--|------|------------|
| 生活支援技術 I | 通信 | 20時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①生活支援とICF ②ボディメカニクスの活用 ③介護技術の基本 ④環境整備、福祉用具活用等の視点 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ○介護技術の基本(移動、移乗、食事、入浴・清潔の保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。 | | |
| 指導の視点 | ボディメカニクスの活用 基本介護技術 住環境整備、福祉用具の活用 | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|------|------------|
| 生活支援技術Ⅱ | 通信 | 30時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・睡眠 ・終末期介護 | | |
| 到達目標 | ○以下について、利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・睡眠 ・終末期介護 | | |
| 指導の視点 | ボディメカニクスの活用 基本介護技術 住環境整備、福祉用具の活用 | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|------|------------|
| 介護過程 I | 通信 | 20時間 | 八木 馨・橋谷 庸子 |
| 授業の目的・ねらい | 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①介護過程の基礎的知識 ②介護過程の展開 ③介護過程とチームアプローチ | | |
| 到達目標 | <u>○介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</u> <u>○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</u> <u>○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。</u> | | |
| 指導の視点 | 介護過程について 連携について | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|------|------------|
| 介護過程Ⅱ | 通信 | 25時間 | 八木 馨・橋谷 庸子 |
| 授業の目的・ねらい | 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①介護過程の展開の実際 ・利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、実際に介護過程を展開する。 ・観察のポイント、安全確保、事故防止、家族支援、他機関等との連携等について考察する。 | | |
| 到達目標 | ○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。 | | |
| 指導の視点 | 介護過程について 介護計画書の立案 連携について | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|--|------|------------|
| 介護過程Ⅲ | 通学(面接授業) | 46時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①介護過程の展開の実際(多様な事例を元に介護過程の展開及び、分析力、応用力を評価する。) ②介護技術の評価(原理原則の修得と実践、知識、技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。) | | |
| 到達目標 | ○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、立案、実施、モニタリング、計画見直し等)を提供できる。 ○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。 | | |
| 指導の視点 | 介護過程について 介護計画書の立案 連携について | | |
| 指導方法 | 面接授業にて講義・演習(個人・グループワーク等)を行い、介護過程の展開及び介護技術の指導を行う。 | | |
| 評価方法 | 講義・演習における課題の達成度にて計ると共に、筆記試験を実施する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|------|------------|
| 発達と老化の理解 I | 通信 | 10時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | <p>発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。</p> | | |
| 授業全体の概要 | <p>①老化に伴う心の変化と日常生活への影響 ②老化に伴うからだの変化と日常生活への影響</p> | | |
| 到達目標 | <p>○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</p> | | |
| 指導の視点 | <p>老化について</p> | | |
| 指導方法 | <p>レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。</p> | | |
| 評価方法 | <p>レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。</p> | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|------|------------|
| 発達と老化の理解Ⅱ | 通信 | 20時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①人間の成長・発達 ②老年期の発達・成熟と心理 ③高齢者に多い症状・疾病等と留意点 | | |
| 到達目標 | <u>○発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</u> <u>○老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。</u> <u>○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</u> | | |
| 指導の視点 | 老化について 高齢者の疾病 | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|--|------|------------|
| 認知症の理解 I | 通信 | 10時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①認知症ケアの理念 ②認知症による生活障害、心理・行動の特徴 ③認知症の人とのかかわり・支援の基本 | | |
| 到達目標 | <u>○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。</u> <u>○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</u> <u>○認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。</u> | | |
| 指導の視点 | 認知症の特徴及び支援方法について | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|------|------------|
| 認知症の理解Ⅱ | 通信 | 20時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①医学的側面から見た認知症の理解 ②認知症の人や家族への支援の実際 | | |
| 到達目標 | <u>○代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等について医学的知識を理解している。</u> <u>○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</u> <u>○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</u> | | |
| 指導の視点 | 認知症の医学的理解について 認知症の支援方法について | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|--|------|------------|
| 障害の理解 I | 通信 | 10時間 | 八木 馨・橋谷 庸子 |
| 授業の目的・ねらい | 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①障害者福祉の理念 ②障害による生活障害、心理・行動の特徴 ③障害児者や家族へのかかわり・支援の基本 | | |
| 到達目標 | ○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ○障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 ○障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。 | | |
| 指導の視点 | 障害者福祉及び支援について | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|--|------|------------|
| 障害の理解Ⅱ | 通信 | 20時間 | 八木 馨・橋谷 庸子 |
| 授業の目的・ねらい | 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①医学的側面からみた障害の理解 ②障害児者への支援の実際 | | |
| 到達目標 | ○様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。 ○障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 | | |
| 指導の視点 | 障害に関する医学的知識について 障害者支援について | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|---------------|---|------|------------|
| こころとからだのしくみ I | 通信 | 20時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等) | | |
| 到達目標 | ○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。 | | |
| 指導の視点 | 身体の機能と構造について | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|---|------|------------|
| こころとからだのしくみⅡ | 通信 | 60時間 | 橋谷 庸子・八木 馨 |
| 授業の目的・ねらい | 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 | | |
| 授業全体の概要 | ①人間の心理 ②人体の構造と機能 ③身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・睡眠 ・終末期介護 | | |
| 到達目標 | ○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。 ○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。 ○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。 | | |
| 指導の視点 | ・身体の機能と構造について ・実際の支援について | | |
| 指導方法 | レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 | | |
| 評価方法 | レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 | | |

授業概要

| 授業のタイトル(科目名) | 授業の種類 | 時間数 | 授業担当者 |
|--------------|--|---------------------|-----------------------------|
| 医療的ケア | 通信・通学(面接授業) | 64時間 (通信50・通学14) | 田中 さゆり・板垣 奉子 松川 智美・橋本 真美 |
| 授業の目的・ねらい | 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 | | |
| 授業全体の概要 | ①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) ③経管栄養(基礎的知識・実施手順) ④演習(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内吸引、胃瘻・経鼻、救急蘇生法) | | |
| 到達目標 | ○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 | | |
| 指導の視点 | 医学的知識の習得 喀痰吸引、経管栄養の知識及び、演習を通じて実技の修得 | | |
| 指導方法 | 【通信授業】レポート課題等の提出による理解度を確認し、学習達成度を計る。また、質問票を用いての自己学習を進める。 【面接授業】厚生労働省通知「喀痰吸引等研修実施要綱」に従い、適切な実施が行えているか確認、指導を行う | | |
| 評価方法 | 【通信授業】レポート課題等の提出を評価する。 A=90点以上、B=89～80点、C=79～70点、D=69点以下の4段階で評価し、D評価の者については個別指導を経た上で、課題の再提出(C評価を受けるまで)を義務付ける。その場合の最終評価はC評価とする。 【面接授業】下記の回数が終了するまで行う。各評価は喀痰吸引等の通知に従い実施する。 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管カニューレ)・経管栄養(胃瘻・経鼻)は各5回以上、心肺蘇生は1回以上行い、その評価をする。 | | |